

缶詰、びん詰、レトルト食品フェスティバルにて募った寄付金 計 153,547 円を「みちのく未来基金」へ納付 公益社団法人日本缶詰協会

日本缶詰協会は、「防災の日」の9月1日（日）にあわせ、「防災の日 缶詰、びん詰、レトルト食品フェスティバル 2013 in 秋葉原」をベルサール秋葉原 1F ホールにて開催した。

同イベントの構成要素の一つとして設置した缶詰、びん詰、レトルト食品の試食コーナー（名称：「チャリティ角打ちコーナー」）では、来場者に対して「みちのく未来基金*」（東日本大震災の義援金）へ100円の寄付を呼び掛けた。同コーナーでは、来場者に対して缶詰、びん詰、レトルト食品各種と缶入りドリンクを各1品のセットで提供した。

この結果、100円以上を寄付する来場者もあり、寄付金の総額は153,547円にのぼった（前年の同催事では108,755円）。同寄付金については、9月4日、日本缶詰協会から公益財団法人みちのく未来基金へ納付を行った。

本催事は、缶詰、びん詰、レトルト食品の特性である即食・個食性、汎用性などの訴求を通じて日常食としての利用機会創出を図ること、また、缶詰、びん詰、レトルト食品が保存性に優れ、非常食としても役立つことから、日常的な常備の必要性についても啓発することを目的として9月1日防災の日にあわせて開催したものの。東日本大震災以降、消費者の食料備蓄に対する意識は一層高まっており、催事を通じて缶詰の有用性を実感できるよう構成した。

当日は日曜日ということもあり、若者層、ファミリー層を中心におよそ7,000名以上が来場し盛況のうちに終了した。

*「公益財団法人みちのく未来基金」－東日本大震災により両親もしくは片親を亡くした子供たちが夢を持ち続けながら成長していくサポートを中・長期的に行っていく事で、東北の地の復興を支援する。その中でも、サポートの少ない「大学及び専門教育への進学」に焦点を当て、東北の地、ひいては日本の復興を支えていく人材を育成する事に寄与することを目的とする。カゴメ株式会社、カルビー株式会社、ロート製薬株式会社が発起人となり2011年10月21日に設立した。

- 名 称：公益社団法人 日本缶詰協会
- 所 在 地：東京都千代田区神田東松下町 10-2 翔和神田ビル 3F
(TEL. 03-5256-4801 FAX. 03-5256-4805)
- 役 割：日本缶詰協会は、「缶詰、びん詰、レトルト食品の安全性の確保と品質の向上を図るために、必要な事項についての研究・調査、技術開発、指導及び普及啓発を行い、もって国民の豊かな食生活の実現と国民経済の健全な発展に寄与すること」を目的として組織されている団体。
したがって、缶詰業界の指導的役割を果していると同時に、缶詰企業と行政当局や消費者を、それぞれにつなぐパイプの役割も、具体的な事業を通じて果している。
- 会 長：久代敏男（株式会社 マルハニチロホールディングス 代表取締役社長）
- 会 員 数：会員（285社）・賛助会員（109社） 合計（394社）
- 本件の問い合わせ先：公益社団法人日本缶詰協会 業務部 藤崎 fujisaki@jca-can.or.jp



みちのく未来基金へ義援金を納付した際の模様



催事当日の寄付の呼びかけ（募金箱）の様子